

Asia Indicators

発表日: 2022 年 7 月 8 日 (金)

インフレ率、韓国は 23 年半、台湾とタイは約 14 年ぶりの水準に (Asia Weekly(7/4~7/8))

~生活必需品のみならず、幅広くインフレ圧力が強まる動きが確認される~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

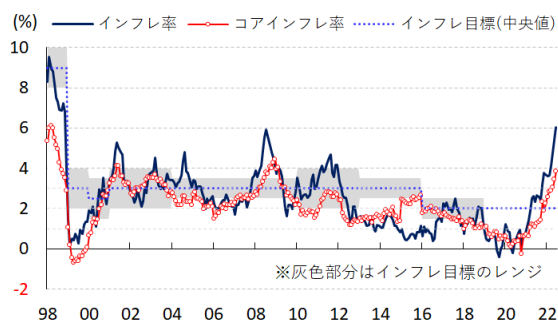
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/5(火)	(韓国)6月消費者物価(前年比)	+6.0%	+5.9%	+5.4%
	(タイ)6月消費者物価(前年比)	+7.66%	+7.50%	+7.10%
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	1.35%	1.35%	0.85%
	(シンガポール)5月小売売上高(前年比)	+17.8%	--	+12.1%
7/6(水)	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	2.25%	2.25%	2.00%
	(台湾)6月消費者物価(前年比)	+3.59%	+3.50%	+3.39%
7/8(金)	(マレーシア)5月鉱工業生産(前年比)	+4.1%	+5.9%	+4.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]~商品市況の上昇に、ウォン安や経済活動の正常化も重なり、インフレ率は 23 年半ぶりの水準に加速~

5日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+6.0%となり、前月(同+5.4%)から加速して1998年11月以来、約23年半ぶりの伸びとなった。前月比は+0.61%と前月(同+0.66%)からわずかに上昇ペースは鈍化しているものの、原油をはじめとするエネルギー資源価格の高止まりを反映してエネルギー価格は上昇傾向が続いているほか、ウクライナ情勢の悪化に伴う穀物など商品市況の上振れを受けて食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる展開が続いている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+3.9%と前月(同+3.4%)から伸びが加速しており、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標(2%)を大きく上回る推移が続いている。前月比は+0.42%と前月(同+0.47%)からわずかに上昇ペースは鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨ウォン相場の調整による輸入物価の上昇も重なり幅広く財価格が押し上げられているほか、感染一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている。

図1 KR インフレ率の推移

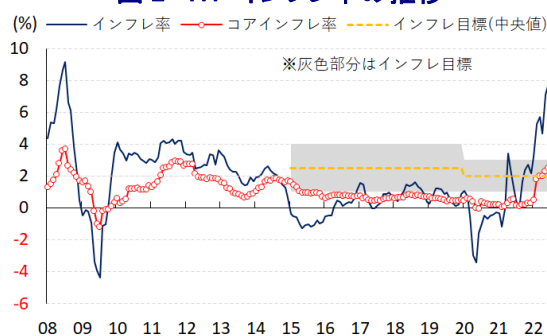


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～商品市況の上昇に、パーツ安や経済活動の正常化も重なり、インフレ率は約14年ぶりの水準に加速～

5日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+7.66%となり、前月（同+7.10%）から加速して2008年7月以来、約14年ぶりの高い伸びとなった。前月比は+0.90%と前月（同+1.40%）から上昇ペースは鈍化しているものの、原油をはじめとするエネルギー資源価格の高止まりを反映してエネルギー価格は上昇が続いているほか、ウクライナ情勢の悪化に伴う幅広い商品高を受けて食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.51%と前月（同+2.28%）から加速しており、引き続き中銀の定めるインフレ目標（ 2 ± 1 ）の範囲内にあるものの、中央値を上回る推移が続いている。前月比は+0.24%と前月（同+0.17%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨パーツ安を受けた輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、感染一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇の動きを強めるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている。

図2 TH インフレ率の推移



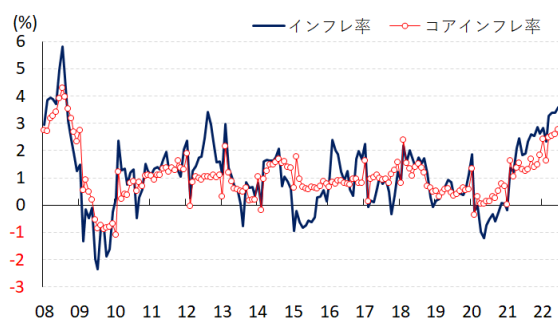
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～生活必需品を中心にインフレ圧力が強まり、インフレ率は約14年ぶりの水準に一段と加速している～

6日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+3.59%となり、前月（同+3.39%）から加速して2008年8月以来、約14年ぶりの高い伸びとなった。前月比も+0.38%と前月（同+0.25%）から上昇ペースが加速しており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の上昇を受けて電力などエネルギー価格に大幅な上昇圧力が掛かる動きがみられるほか、穀物など商品市況の上振れに伴い生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、

生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.77 となり、前月（同+2.60%）から加速して 2008 年 10 月以来の高い伸びとなっている。ただし、前月比は+0.06%と前月（同+0.09%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れにも拘らず衣類など一部の財価格に下押し圧力が掛かっていることが物価の重石となる一方、幅広く財価格は押し上げられているほか、感染再拡大を受けた人の移動の萎縮に伴いサービス物価も上昇するなど、幅広くインフレ圧力が強まっている。

図 3 TW インフレ率の推移

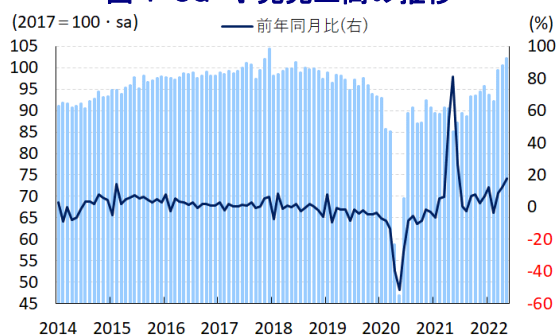


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～経済活動の正常化に雇用環境の回復が重なり、家計消費は幅広く堅調な動きが確認される～

5 日に発表された 5 月の小売売上高は前年同月比+17.8%となり、前月（同+12.1%）から伸びが加速した。前月比も+1.77%と前月（同+1.07%）から 3 ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている。なお、同国ではナンバープレートの交付に連動する形で自動車販売が月ごとに大きく振れる傾向がある上、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲5.73%と前月（同▲3.05%）から 2 ヶ月連続で減少するなど弱含む動きがみられる。ただし、自動車を除いたベースでは前月比+2.70%と前月（同+1.61%）から 3 ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど、家計消費は堅調な動きをみせている。感染一服による経済活動の正常化の動きに加え、欧米など主要国を中心とする世界経済の回復も追い風に雇用環境は改善するなか、ペントアップ・デマンドの発現も重なり家計消費が押し上げられている。食料品やエネルギーなど生活必需品のみならず、宝飾品をはじめとする高額消費や余暇消費など幅広い分野で堅調な動きが確認されるなど、家計消費の堅調さを反映しているものと捉えられる。

図 4 SG 小売売上高の推移

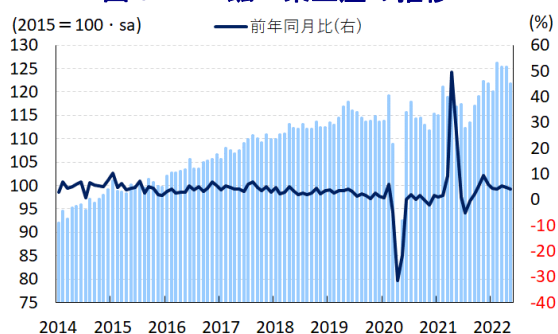


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～電子部品関連の生産に底堅さも、幅広く製造業や鉱業部門の生産に下押し圧力が掛かる動き～

8日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+4.1%となり、前月（同+4.6%）から伸びが鈍化した。前月比も▲2.91%と前月（同+0.03%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの様相を強めている。鉱業部門のみならず、製造業の生産にも下押し圧力が掛かるなど幅広く生産が鈍化している。なお、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産は引き続き堅調な動きをみせているほか、自動車をはじめとする輸送用機器関連の生産も底堅く推移している一方、石油化学関連や金属製品関連の生産は弱含む動きをみせているほか、食品関連など軽工業分野の生産も鈍化しており、生産全体の足かせになっている。

図5 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。